

「博物館が無い自治体の人々」にも「博物館のための負担」をしてもらうには何が必要か？

持田 誠（浦幌町立博物館）

1. 本研究の目的

社会に対して「博物館の必要性」や「博物館の機能強化」を訴えていく上では、現時点で「博物館が無い自治体」に対しても、「博物館のための負担」を負うことについて理解を得る必要がある。そのためには、「博物館が無い自治体」も、実は既存の博物館からさまざまな機能面での恩恵を受けていることを実感してもらうことが有効ではないかと考える。そこで、博物館機能のうち、さまざまな質問や相談を受け付ける「レファレンス機能」に着目し、浦幌町立博物館を事例として、博物館を設置している自治体「以外の人々」が、レファレンス機能を通じていかに博物館を活用しているのか？について数値化を試みた。そのうえで、「博物館が無い自治体の人々」にも「博物館のための負担」をしてもらうには何が必要か？を検討した。

2. 材料および方法

検証の材料は、浦幌町立博物館の利用統計である。2016～2021年度にかけての6年間のレファレンス受付件数の内訳を検討し、浦幌町立博物館設置自治体である北海道十勝郡浦幌町内からの受付件数（個人・事業者含む）と、浦幌町以外からの受付件数を数値化した。

3. 結果

浦幌町立博物館における年度単位のレファレンス受付件数と、依頼者属性別の件数は表のとおりである。総件数は年度によりばらつきが大きいがおおむね100～200件で推移していた。いずれの年度においても町内よりも町外からのレファレンス依頼が多く、全レファレンス件数に対する町外からの依頼件数は約80%であった。

レファレンスの内容は、町内からは「町史に関する相談」「化石の鑑定依頼」が多いのに対して、町外からの依頼は「植物の同定依頼や自生地に関する相談」「町内出土の考古資料についての問い合わせ」「町史に関する相談」「鉄道史に関する相談」「コロナ関係資料に関する相談」が多かった。利用者の属性では、町外からの利用でもっとも多いのは、新聞社やテレビ局といった報道機関であり、ついで市民、研究者、行政機関、雑誌や書籍を刊行する出版社等であった。

4. 考察

町内からのレファレンス件数が町外に比べて少ないことの理由として、浦幌町立博物館のレファレンス統計には、学校帰りに拾った石を持ち込んで名前を相談に来る子ども達が含まれていない（ただしその場で判断できず資料を預かって専門館へ問い合わせた件数は含まれている）ことが大きい。これは浦幌町立博物館のレファレンス統計の記録上の欠陥であり、博物館がいかに利用されているか？を考える上では、こうした軽微な相談も統計に反映させることが必要だろう。

いっぽう、統計上、80%近い利用が町外からだった背景としては、（1）当館が十勝地方における、数少ない「郷土資料館系博物館」であること、（2）学芸員の専門分野・得意分

野が十勝地方では唯一の「植物」「鉄道」であること、(3) コロナ関係資料を収集していること、が大きいと考えられる。図は、十勝地方における公立博物館(美術館・動物園を除く)や学芸員の分布である。このうち、足寄町は動物化石の専門博物館であり、上士幌町は大雪山国立公園に設置された環境省との合同施設であり、地域の歴史から自然史までを総合的に扱う「郷土資料館系博物館」は、浦幌町と、十勝圏広域施設である帯広市にしか設置されていない。また、広尾町には博物館はあるが学芸員の配置が無く、逆に陸別町、芽室町には学芸員発令を受けた職員がいるが、いずれも兼務発令で博物館に配置されていないため、その存在が市民に広く認知されていない。なお、近年になって幕別町と音更町が新たに学芸員を配置しており、特に幕別町は古生物学系と民族学系の2名を配置したこともあって、今後は十勝における新たなレファレンス拠点となることが推察される。

こうしたことから、十勝管内における数少ない博物館・学芸員のひとつとして、町内に限らず、(1) 管内から相談が寄せられる (2) 学芸員の専門分野に応じた相談が管外から寄せられる、ものと推察される。

注目すべきは、管内の他自治体からも、文化財や資料保存に関する相談が毎年一定数寄せられていることである。このことは、市民だけでなく、行政機関としても、博物館の「機能」が求められていることを示すものである。すなわち、現時点で「博物館が存在しない」からといって、その自治体の住民・行政が「博物館を必要としていないということにはならない」ことを示すものであると言って良いだろう。

5. 全国で設置自治体以外の利用者に関する統計の収集・公開を

社会全体に博物館の役割を広く知ってもらい、博物館をより理想的な形で発展させていくためには、博物館の無い自治体に居住する人たち、博物館を日頃直接的には利用していない人たちにも、博物館の持つ「機能」について理解を得ていく必要がある。全国の博物館と同様の統計化と比較、情報発信が進むことを期待する。

表 浦幌町立博物館におけるレファレンス受付件数とその内訳

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
レファレンス受付件数合計	130	97	167	140	204	115
うち浦幌町内からの件数	20	23	31	32	41	21
うち浦幌町外からの件数	102	74	136	108	163	94
受付件数に締める町外の比率	78.5	76.3	81.4	77.1	79.9	81.7

